

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年12月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

収穫は順調に行われ、12月8日現在の収穫進捗率は98%（前年93%）です。県南地域では収穫終了しました。県北地域では12月中旬に収穫終了見込みです。9月下旬からの乾燥により粒の肥大が劣り、大粒比率は低いです。裂莢による収穫ロスも見られるため、収量は前年（125 kg/10a）より少ない見込みです。収穫後に麦播種予定のほ場は、排水対策を早急に実施しましょう。

◇麦類◇

播種作業は順調に行われ、12月9日現在の播種進捗率は93%（前年96%）です。大豆後作ほ場を含め、播種終了は12月下旬の見込みです。11月中下旬播種では、低温により出芽が平年並～3日程度遅いですが、出芽後の生育は順調です。播種前後の排水、雑草対策を徹底しましょう。12月中旬以降に播種する場合は、播種量を増やしましょう。11月中旬播種の生育旺盛なほ場では、3葉期になったら踏圧しましょう。

◇イチゴ◇

早期作型は、定植後の高温の影響で生育がやや早く、出荷開始は昨年より6日早い11月1日となりました。11月の日照時間が平年並み～やや長く、果実の成熟が進み小玉傾向となったため出荷量は伸び悩みました。現在、1番果房の収穫盛期～終盤です。

普通作型は、定植後の乾燥の影響で初期生育が緩慢となり、全体的に生育がやや遅いです。現在、1番果房の着色期～収穫始期であり、果形の乱れが見られますが果実肥大は良好です。生育のバラつきが大きく、年末にかけて出荷量の極端な増加はない見込みです。

2番花房の出蕾期になってきており、着果負担や天候に応じた摘果、温度や電照管理などを徹底し、厳寒期の草勢維持に努めましょう。

ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病などの発生がみられることから、病害虫の対策を徹底しましょう。

◇冬春トマト◇

50.6ha 土耕促成栽培の主要作型（9月中旬以降の定植）は、定植後の生育が比較的順調で、平年並み～やや早く、12月上旬から出荷開始しました。着果負担がかかってきているが樹勢も比較的安定しています。果形がやや乱れています。果実肥大は良好です。

うどんこ病やコナジラミ類の発生がみられます。

ハウス内の温度確保にあたっては、多湿状態に注意して、保温や換気の管理を行いましょう。

病害虫対策の徹底と適正な肥培管理に努めましよう。

◇温州ミカン◇

現在、早生温州がほぼ出荷終了し、普通温州が出荷はじめです。全体の出荷量は前年よりやや多いです。

早生温州は、11月以降の気温低下に伴い着色も回復し、出荷は順調に進みました。果実肥大も概ね良好で、一部浮皮がみられたましたが、腐敗果等のロスは少なかったです。

普通温州は、糖度、酸度は前年並で一部浮皮が発生しています。出荷量は、前年並み～やや少ない見込みです。2月まで出荷予定です。

収穫前の腐敗防止対策を徹底しましよう。

貯蔵する場合は、庫内温度3～5℃とし、湿度85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行いましょう。

定期的に庫内を見回り、腐敗果の除去を徹底しましよう。

◇カキ◇

「富有」の出荷は12月上旬で終了しました。今後、冷蔵柿の販売が12月中旬から開始され2月上旬頃まで続く予定です。

出荷量は、ヘタスキやフジコナカイガラムシによる軟熟果が多発し、前年より多いものの、平年より少ないです。

果実品質は、着色が平年並みからやや劣ったものの、糖度は高かったです。

収穫終了後は元肥を速やかに施用しましよう。

樹勢が低下している園では、堆肥等を投入し、樹勢の維持・回復を図りましよう。

粗皮剥ぎを実施し、カイガラムシや枝幹害虫の密度低減を図りましよう。

「早秋」等では剪定時に炭疽病の罹病枝切除を徹底しましよう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷（10～12月）作型が出荷中です。10月の日照時間が多く、ブラスチング等の生育障害の発生は少ないです。一方、出荷量は作付面積の減少等により、前

年よりやや減少であったが例年よりも減少しました。

販売単価は、前年よりも低いものの、例年よりも高いです。

春出荷（3～4月）作型における頂花の発蕾時期は11月下旬～12月上旬と平年並です。

春出荷（3～4月）作型では、加温、電照により生育を促進させ、頂花・一次小花の整枝・摘蕾処理は年内を目安に実施しましょう。

頂花発蕾後は夜間の管理温度を低下させ、ブラッシング対策を行きましょう。

灌水は晴天時に行い、湿度の上昇を抑え、地温を確保しましょう。

◇豚・鶏◇

11月の豚枝肉価格は、出荷頭数が増えたことから前年比92%、過去5年平均比97%と下回りました。今後は外食需要の回復や鍋シーズンの到来で需要拡大が期待されます。

鶏卵価格は、供給過多で安値だった前年度と比べると高値でしたが、巣ごもり需要の緩和など先行き不透明な需要から過去5年平均比では99%と例年並みの価格です。

高病原性鳥インフルエンザが近隣県を含め国内で発生しているため、鶏舎の野鳥侵入対策等、農場防疫を徹底しましょう。

また、豚においても豚熱等の発生予防の衛生管理を徹底しましょう。